実践 12　特別支援教育　特別支援教育に関する研修・授業づくりサポート

「主体的に学習に取り組む態度」の基盤づくりとして、特別支援教育についての講義の中で発達障害の特性や支援の方法等について職員と共通確認や、知的障害特別支援学級における授業づくりのサポートを行う。

職員向けアンケートの実施

7月に職員へ生徒の対応で困っていることがあるのか「特別な支援を要する生徒に関するアンケート」を実施した。11名の職員からの回答があり、「板書が最後まで書けない」「漢字が苦手」といった読み・書きに困難を抱える生徒、「意図が伝わりにくい」「授業中おしゃべりして落ち着かない」といった授業に集中ができない生徒への対応や障害特性に対する専門的な知識が十分でないとの回答があった。

アンケートの回答（一部抜粋）
- 板書が最後まで書けない
- 集中して取り組めずおしゃべりなど落ち着かない
- できないと感じたら作業ストップ　等
- 漢字が苦手、数学等の計算は手助けを要する
- 意見交換やグループ学習が難しい

特別支援教育に関する研修
講義「発達障害の特性理解と支援について」

職員アンケートにあげられていた子供達の支援を考えるにあたり、氷山モデルを用いた発達障害の特性理解と支援方法に関する講義・演習を実施した。

先生の困り感と子供の困り感は同じ？

先生と生徒との困り感は必ずしも一致せず、生徒の困り感にアプローチすることが重要

先生の困り感　≠　子供の困り感

先生の困り感
授業中のおしゃべりがあり、集中力が続かない

もしかしたら・・

子供の困り感
○周りの刺激が気になってしまう
○読んだり書いたりすることに精一杯で学習内容が理解できない
⋮

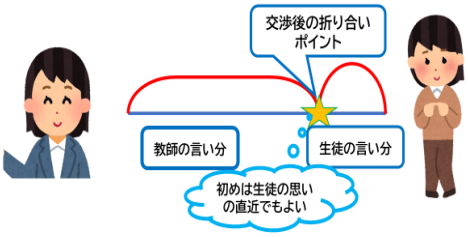
先生の困り感
板書が最後まで書くことが難しい

もしかしたら・・

子供の困り感
○板書を見て、ノートを見るとなんて書いてあったのか思い出せない
○書く時に時間がかかってしまう
⋮

氷山モデルとは

「人の様々な行動を水面上の一角に例え、その部分だけではなく水面下の要因に着目する視点です」支援を考える際、目に見える実態を指導のターゲットにせず、生徒の背景にある要因を探ることが支援を考える第一歩になります。



提案・交渉型アプローチ「叱らないけど譲らない支援」

生徒との話し合いの中で「提案・交渉型アプローチ」を行い、生徒の気持ちに寄り添いながら、問題解決に向けたいくつかの方法を先生が「提案」し、生徒と「交渉」する中で、子供の自主的・主体的に解決に向けた行動を「選択」できるように指導・支援することが有効です。そのためには日頃からの生徒への言葉かけなど信頼関係づくりも大切！！

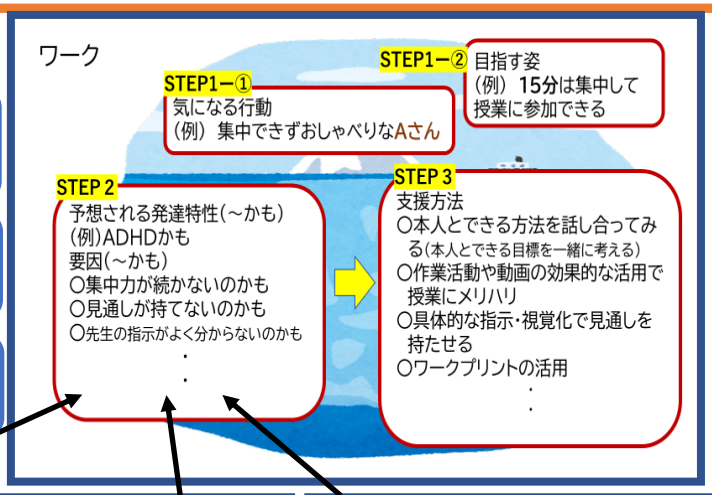
「提案・交渉型アプローチ」武田哲郎（2020）参照

ワーク（氷山モデル）

STEP1-①、1-②
気になる行動・目指す姿を書いてみよう

STEP2
予想される発達特性や要因を書いてみよう

STEP3
できそうな支援方法を考えてみよう



自閉症スペクトラム（ASD）

【特徴】他者との社会的関係性　など
【苦手】日程や物の配置などの変化など
【得意】人の意見に左右されない　など
【関わりのポイント】
手順を示し、見通しを持たせる　など

注意欠陥多動性障害（ADHD）

【特徴】注意力・衝動的　など
【苦手】持ち物管理・提出物　など
【得意】新しいものに敏感　など
【関わりのポイント】
活動単位は短く　など

学習障害（LD）

【特徴】読む・書くなどに困難・・・
【得意】支援ツールの活用で克服できる場合がある
【関わりのポイント】
代替手段の確保　など

【各障害の特徴・苦手・関わりのポイント・得意なことの詳細については本センターWEB ページをご覧ください。】

研修を受けての職員からの感想（一部抜粋）
・グループワークで支援方法を考えるのが良いなと思った。要因も多面的に考えられたので良かった。
・生徒との信頼関係づくりや授業の進め方、生徒との関わりについてみんなで確認できたので良かった。
・気になる生徒を表面上だけで見るのではなく、背景を知る大切さを知った。他の教師からの違うアドバイスもとても良かった。

知的障害特別支援学級における授業づくりサポート

特別支援教育の視点を大切にした授業づくり
＊生徒に提示する資料は焦点化しやすいようにイラストを活用し視覚化する。
＊タブレットを活用するなど多様な表現方法を選択できるようにする。
＊生徒同士がお互いの意見を伝えやすい学級の支持的風土づくりを大切にする。

授業の参観　生活単元学習「SDGs　自分にできることを考えよう」（5／6校時）
教材も丁寧に作成され、提示する資料の文字も生徒が分かりやすい大きさに工夫されており、文字を書くことが苦手な生徒へは、ロイロノートを活用することで生徒も自分のペースで文字を入力し提出する場面が見られた。

（反省会での助言）
＊評価基準を定めて、どのような姿が見られたらどの評価にするのかを明確にするとよい。
＊生徒が見通しを持ちやすくなるように、手順表や具体的な指示を行うとよい。
＊振り返りシートは生徒の実態に合わせるとよい。
（文章表現が苦手な生徒には、穴埋めにして分量の調整を図る）
＊成果をポスター等にして掲示することで学びの振り返りや生徒の自信につながるようにするとよい。

◎　実践の効果

・特別支援教育についての講義の中で発達障害の特性や支援の方法等について職員と共通確認を行うことができた。
・知的障害特別支援学級において、視覚化や表現方法等を確認し、特別支援教育の視点を大切にした授業づくりをサポートすることができた。